



「地域経済分析システム（RESAS）」で読み解く 大阪府の現在と未来

内閣府RESAS専門委員
松浦 義昭

大阪府総務部統計課主催のRESAS等利活用研修会にて利用されたテキストです。本テキストの内容は著作権法上の保護を受けています。本テキストの著作権は松浦義昭氏に属します。コンテンツの利用に当たっては、以下の出典記載例（1）または（2）のように出典を記載してください。

（出典記載例1）令和三年10月18日RESAS等利活用研修会（大阪府）松浦義昭氏執筆テキストより引用

（出典記載例2）松浦義昭（2021）「地域経済分析システム（RESAS）」で読み解く大阪府の現在と未来より引用

松浦 義昭 氏



内閣府 R E S A S 専門委員。経済学博士。
著書に『R E S A S の教科書』（共著、日経 B P 社）。

内閣府・内閣官房と実践的な地域人材育成教育プログラムを共同開発。
実施結果を踏まえて利用可能な教材やカリキュラムを体系化し提供を
行っています。これまで約7,000人が学んでいます。(2021年9月現在)

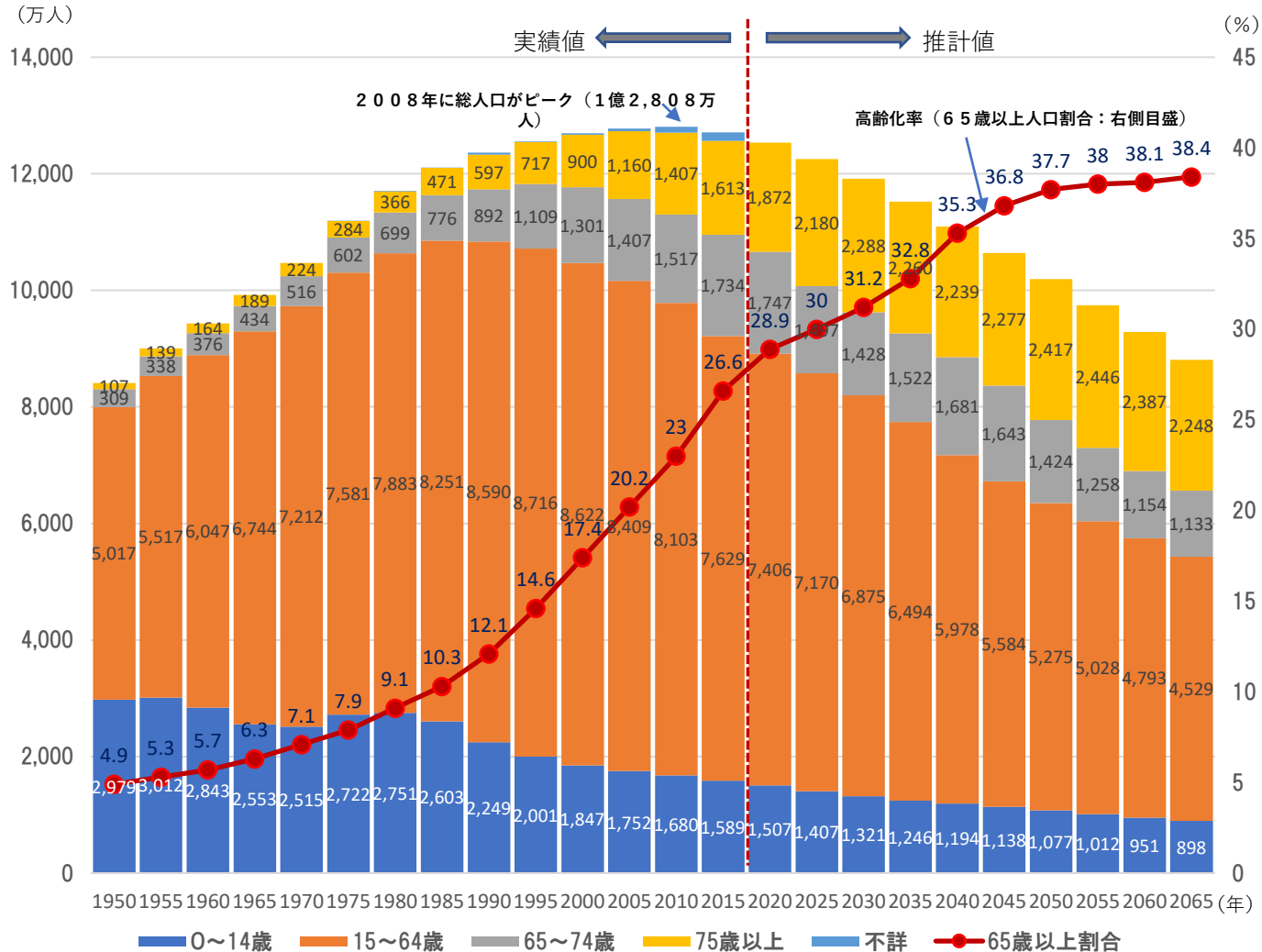
R E S A S（地域経済分析システム）について、全国で講演。
また、政府機関、自治体、教育研究機関、民間企業等において地域分析
の助言や地域分析の研修を担当するなど R E S A S の利活用を研究。

研究テーマは、内閣官房及び内閣府との連携教育の実践と評価。
産官学金連携の教育研修プログラムの開発・支援。
EBPM：Evidence-Based Policy Making（証拠に基づく政策立案）支援。

地方創生

日本の人口構成

15歳から64歳まで生産年齢人口は、1995年がピークである。団塊の世代の定年を迎えて、生産年齢人口の比率が低下する「人口オナース」が進展。2040年頃には毎年100万の人口が減少すると予想されている。

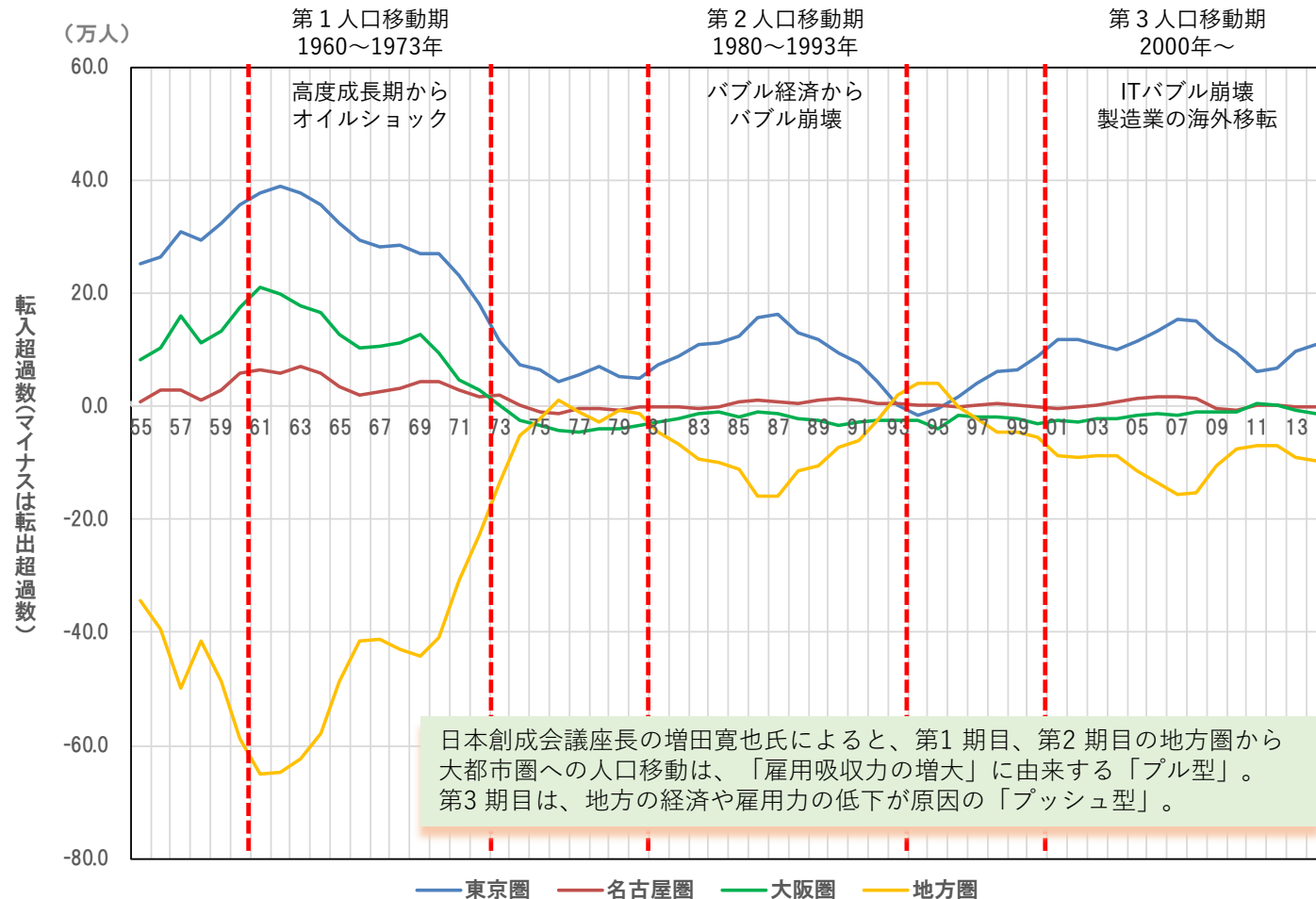


（出典）2015年までは総務省「国勢調査」、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果の数値をもとに筆者作成。

地方圏から三大都市圏への人口流出

地方圏から三大都市圏への人口流出

2000年以降、地方から大都市圏への人口移動の多くが東京圏に集中しており、東京一極集中化の傾向が顕著に表れている。その原因として、若年層の大学進学及び卒業後の雇用を求めている流出が挙げられる。地方からの若者人口流出による人口減少は、地方の労働力人口の減少と消費市場の縮小という両面で地方経済に影響がある。



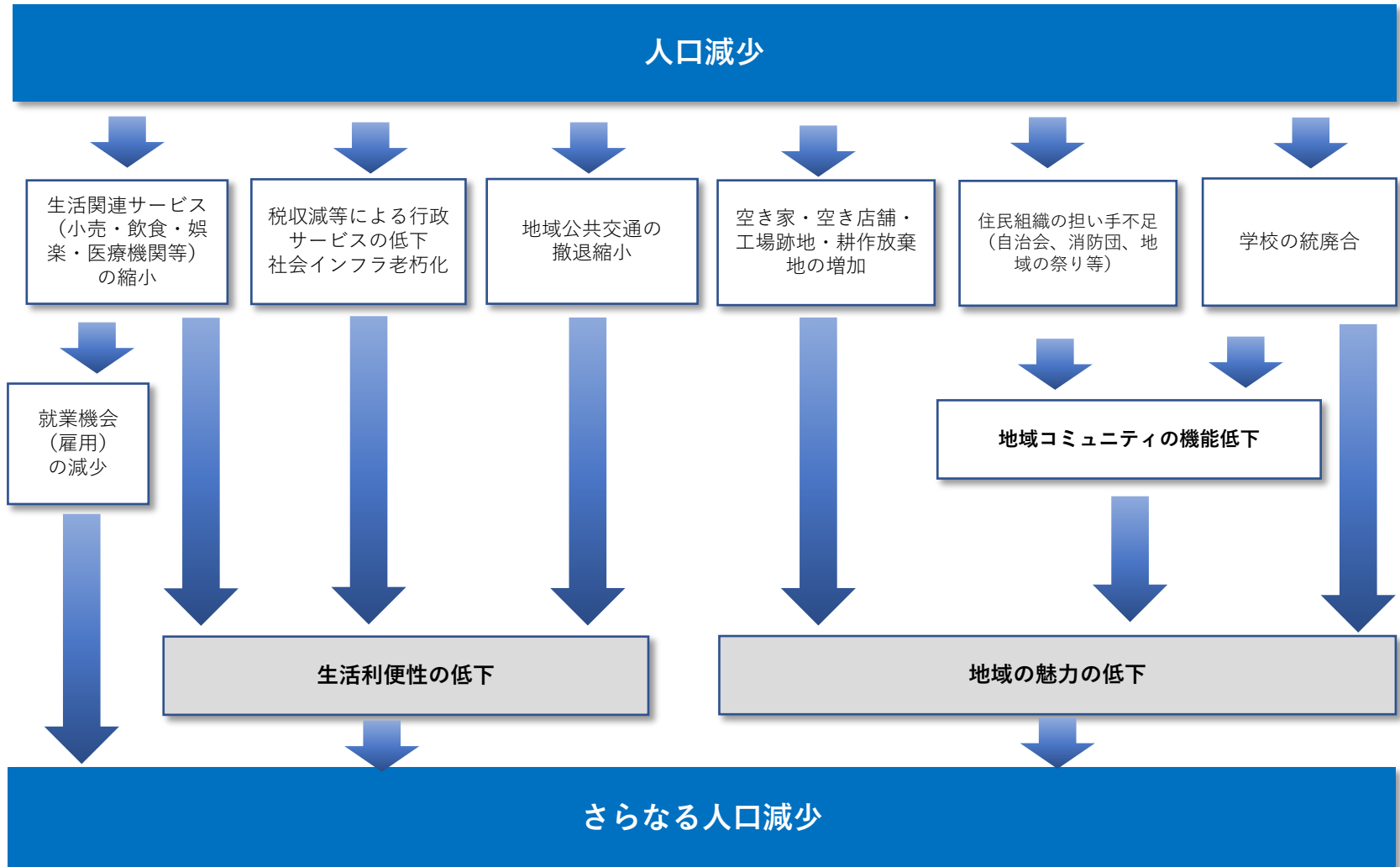
(出典) 総務省統計局『住民基本台帳人口移動報告年報』の数値に基づき筆者作成。

(注) 横軸は、年を示している。縦軸は、転入超過数を示している。マイナスは転出超過数を示している。

(注) 東京圏(東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県)、名古屋圏(愛知県・岐阜県・三重県)、大阪圏(大阪府・京都府・兵庫県・奈良県)、三大都市圏(東京圏・名古屋圏・大阪圏)、地方圏(三大都市圏以外)。なお、日本人のみを対象とし、三大都市圏間の移動は含まれない。

人口減少の悪循環のイメージ図

地域によって起こり得る影響やその程度は異なるため、すべての地域で以下のような人口減少の流れにあてはまるわけではない。しかし、人口減少を漠然とした危機意識ではなく、自らが居住する地域でも起こり得る身近な問題として認識を共有することが重要。



(出典) 国土交通省「国土交通白書2015」の図表をもとに筆者作成

国の目標

国では、人口減少問題の克服に向けて、その取り組みの指針となる「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」を策定しています。

この長期ビジョンは、今後、目指すべき将来の方向として、

①2060年に1億人程度の人口を維持する、ことを目標に掲げています。

また、長期的な視点に基づいて、

②国民の希望が実現した場合の出生率（国民希望出生率）を1.8に、

③「東京一極集中」の是正、も目標に掲げています。

（出典）内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」

こうした国の長期ビジョンとともに、
地方の都道府県・市区町村でも「地方人口ビジョン」と「地方版総合戦略」
の策定に努めることになりました。

証拠に基づく 政策立案

EBPMの推進について

内閣官房 統計改革推進会議

「EBPMの推進について」

- 証拠に基づく政策立案（**EBPM**）とは、（1）政策目的を明確化させ、（2）その目的のため本当に効果が上がる行政手段は何かなど、「政策の基本的な枠組み」を証拠に基づいて明確にするための取組。
- 限られた資源を有効に活用し、国民により信頼される行政を展開するために、**EBPM**を推進する必要。

（出典）統計改革推進会議決定最終取りまとめ参考資料（首相官邸）

EBPM：「**Evidence-Based Policy Making**（証拠に基づく政策立案）」

エピソード・ベースとエビデンス・ベース

エピソード・ベース

たまたま見聞した事例や限られた経験（エピソード）のみに基づき、政策を立案

政策とその効果の
分析が不十分

エビデンス・ベース

- ・変化が生じた要因についての事実関係をデータで収集
- ・どのような要因がその変化をもたらしたかをよく考え、データで検証して政策を立案

※ 過去の経験等も含めデータとして収集、適切に分析。他者による検証も可能となるよう出典、分析方法等を明示。

(イメージ)

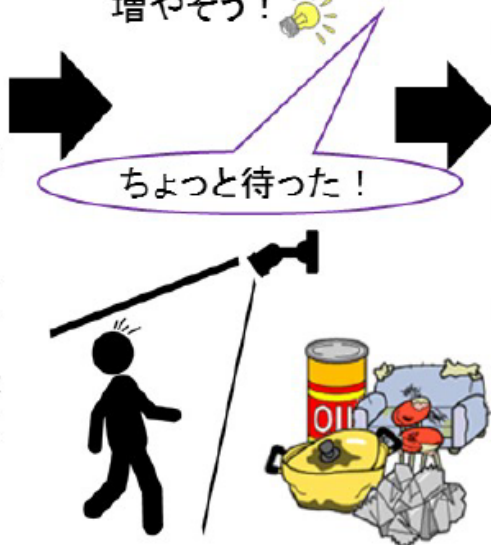
ある町ではゴミの集積所での不法投棄に日頃から悩まされている。

【エピソード】

町長が、隣町にはそれが少ないことに気づき、部下に調査させたところ、隣町ではセンサーライトが設置されている集積所は不法投棄が少ないことが分かった。

エピソード・ベース

不法投棄を減らすために我が町のライトを増やそう！💡

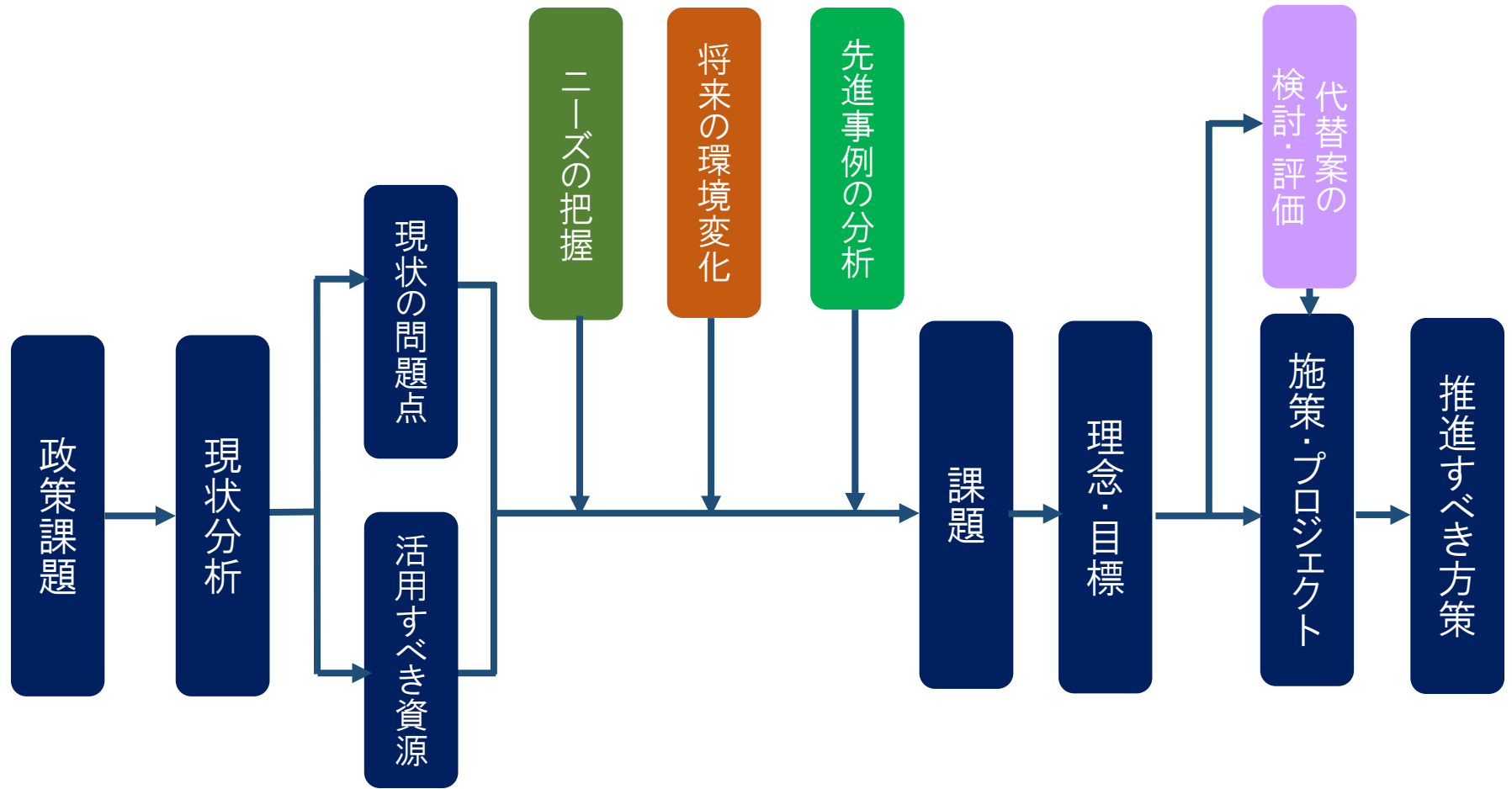


エビデンス・ベースの検討

- 隣町ではライトを増やしたから不法投棄が減少したのか？
 - 調査したところ、ライトを設置した地区では、それ以前から、自治会の啓蒙活動が活発化しており、それに合わせて不法投棄が減少していた。
 - ライトの増設より自治会の啓蒙活動が不法投棄対策の有効な手段か？その他の要因は？
- ⇒ 我が町の状況（例：自治会の状況、ゴミの処理料金などのデータ）やより広範なデータに照らし、不法投棄の減少効果を見込める条件は何か、多様なデータで多角的に検証、政策立案

出典等の明示で、検討・意思決定プロセスを透明化

(例) 政策立案の流れ



課題設定

問題分析

政策立案

客観的な分析の必要性

地方版総合戦略は、各地方公共団体自らが、客観的な分析の基づいてその課題を把握し、地域ごとの「処方せん」を示すものである。

したがって、地方版総合戦略は、各地方公共団体が自主性・主体性を発揮し、地域の実情に沿った地域性のあるものとすることが重要である。

(出典) 閣副第979号通知別紙より抜粋

自治体職員による分析が必要

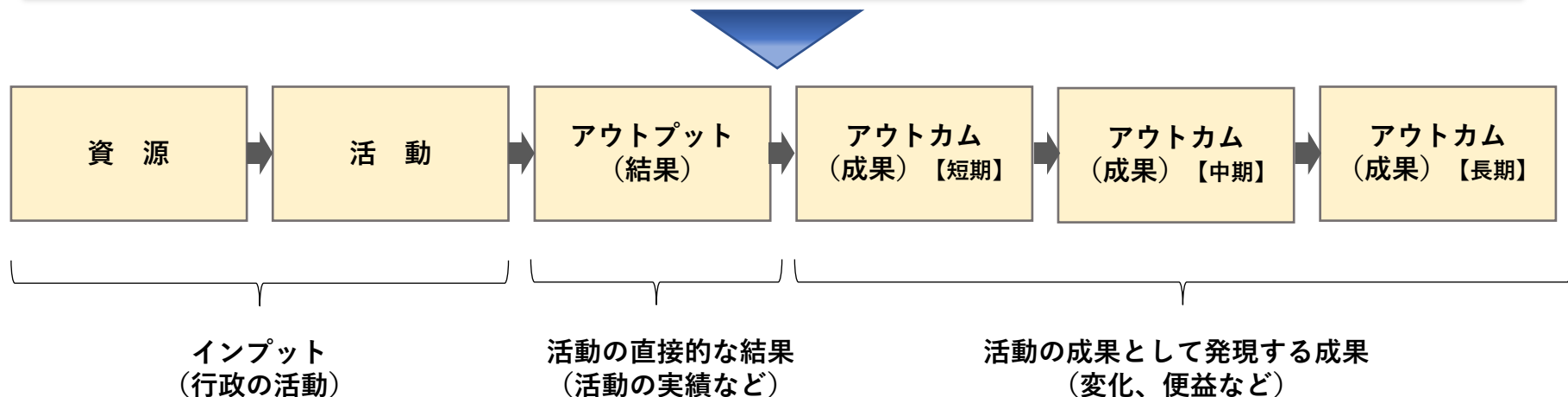
どのようなデータで、どのような分析を…

RESAS: 「Regional Economy (and) Society Analyzing System (地域経済分析システム)」

RESASは、全国平均や他の自治体との比較で、自らの自治体の立ち位置を確認できる。過去や将来推計に基づき、時間軸を越えた比較が可能。課題の要因を分析するためのデータの収集も容易。

ロジックモデル

- ・ E B P Mの前提として、政策のロジックモデルを明確にすることが重要である。
- ・ 期待される成果（目的）とその達成手段（インプット）との間の論理関係を明確にすることで、政策の目標や目的を明らかにすることができ、解決すべき課題の特定とそのために必要とされる分析を考えることが可能となる。



- ① ヒト・モノ・カネなどの投入「資源」
- ② 資源を活用した「活動」
- ③ 活動の直接的な結果の「アウトプット (結果)」
- ④ 活動の成果として発現する「アウトカム (成果)」 (短期・中間・長期)

RESASとEBPM

地方創生・三本の矢（情報・人材・財政）のひとつ

RESASは地方自治体の政策意思決定支援ツールとして「勘や経験や思い込み（KKO）」だけではなく、「証拠に基づく政策立案（EBPM）」に移行することを支援するツール。

行政での利用のみならず、地域住民が自らの地域について課題を分析し、地域の未来やあるべき姿を話し合うきっかけも提供。

RESAS: 「Regional Economy (and) Society Analyzing System（地域経済分析システム）」

RESASとは



☰ メインメニュー



授業モデル



ダッシュボード



データ分析支援



サマリー



ヘルプ



問合せ



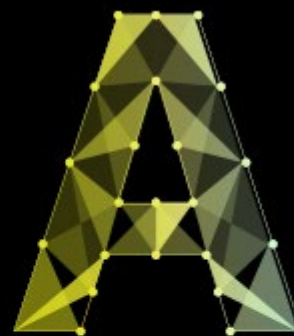
Regional



Economy



Society



Analyzing



System

地域経済分析システム

RESASとは

RESASは、地域経済に関する**官民の様々なデータ**（企業間取引、人の流れ、人口動態等）を収集し、図やグラフでわかりやすく「**見える化（可視化）**」するシステム。効果的な施策の立案・実施・評価・改善（**PDCA**）を後押しするツールとして、2015年4月にリリースされ、現在、9つのマップで構成されています。



地域経済を活性化するためには、地域の現状を把握し、**自らの強み弱みや課題**を分析し、**地域の特性に応じた施策**の検討と実行が必要。

RESASは、全国平均や他の自治体との比較で、自らの**自治体の立ち位置**を確認できる。過去や将来推計に基づき、時間軸を越えた比較が可能。課題の要因を分析するためのデータの収集も容易。

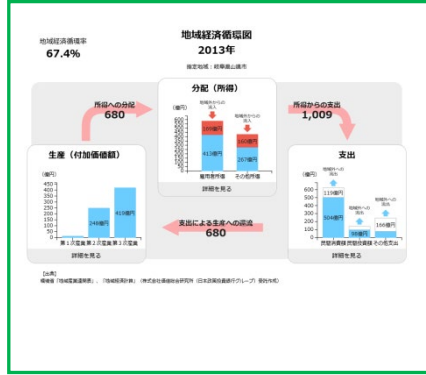
RESAS・9つのマップ

人口マップ



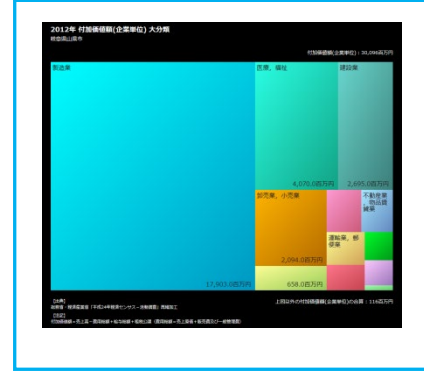
人口構成や推移、転入転出状況等を把握することができます。

地域経済循環マップ



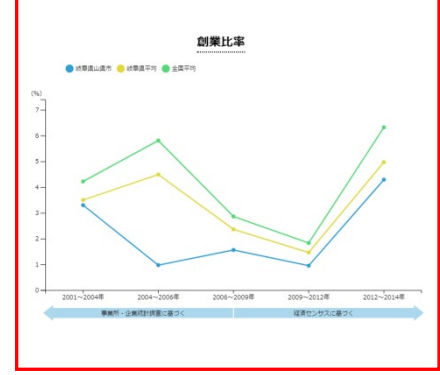
地域のお金の流れを「生産・分配・支出」の3つの側面から把握します。

産業構造マップ



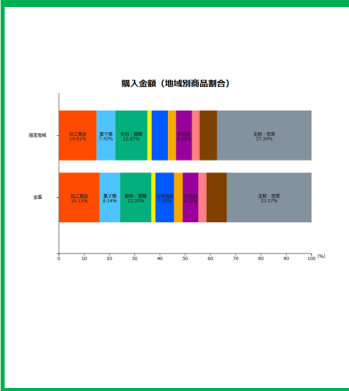
地域の主要産業や産業面での特徴(強み・弱み)を把握します。

企業活動マップ



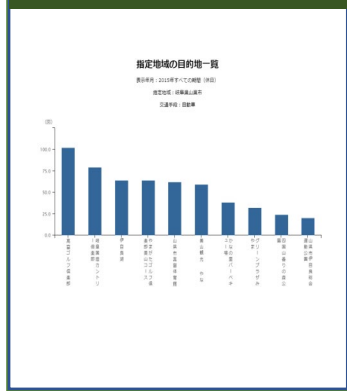
地域の創業比率や特許、補助金採択企業の分布等を把握します。

消費マップ



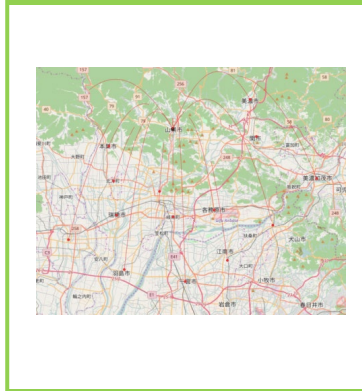
地域の購入POSデータや外国人消費の構造を把握します。

観光マップ



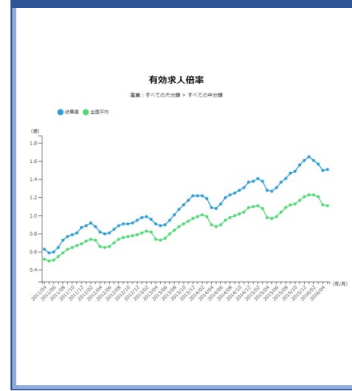
地域の人気スポットや宿泊者の動向を把握します。

まちづくりマップ



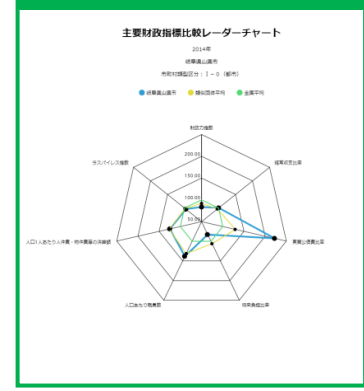
通勤・通学による地域間の移動を把握します。

医療・福祉マップ



地域の雇用や医療・介護の需要や供給等を把握します。

地方財政マップ



自治体の財政状況や一人当たりの地方等を把握します。

RESAS以外のデータベースの例

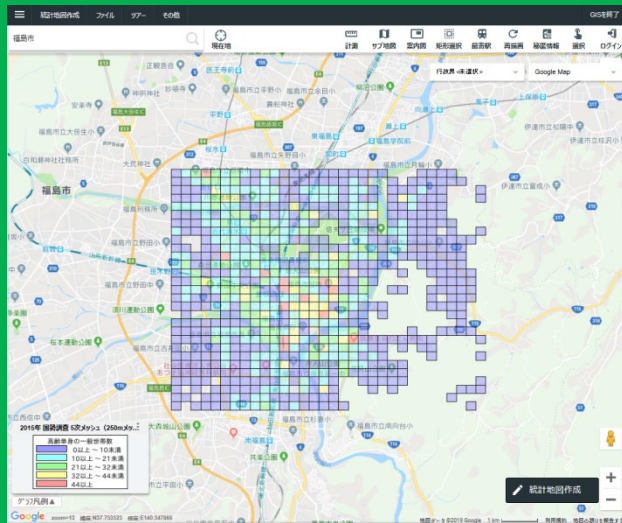
政府統計の総合窓口（e-Stat）



統計ダッシュボード



地図で見る統計（jSTAT MAP）



RESAS Key Point

政府機関、地方自治体、調査会社や研究所が様々な統計情報を公開しています。RESASとRESAS以外のデータを組み合わせることで幅広い情報を収集、分析することが可能です。



内閣府RESAS専門委員
松浦 義昭 先生

定量分析と定性分析

定量情報

どのくらい
増えているのか？

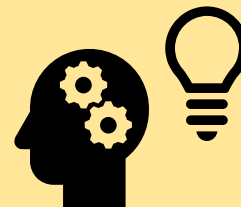


現状や推移、課題の把握

大小を比較する
割合を比較する
変化を把握する

現状を大枠で把握する
課題を大枠で把握する
原因のあたりをつける

定性情報



なぜ
増えているのか？

原因や要因の特定

大小が生じる背景や
理由を把握する
変化が生じた背景を
把握する

現状の背後にある構造
メカニズムを把握する
原因を把握する

現状把握

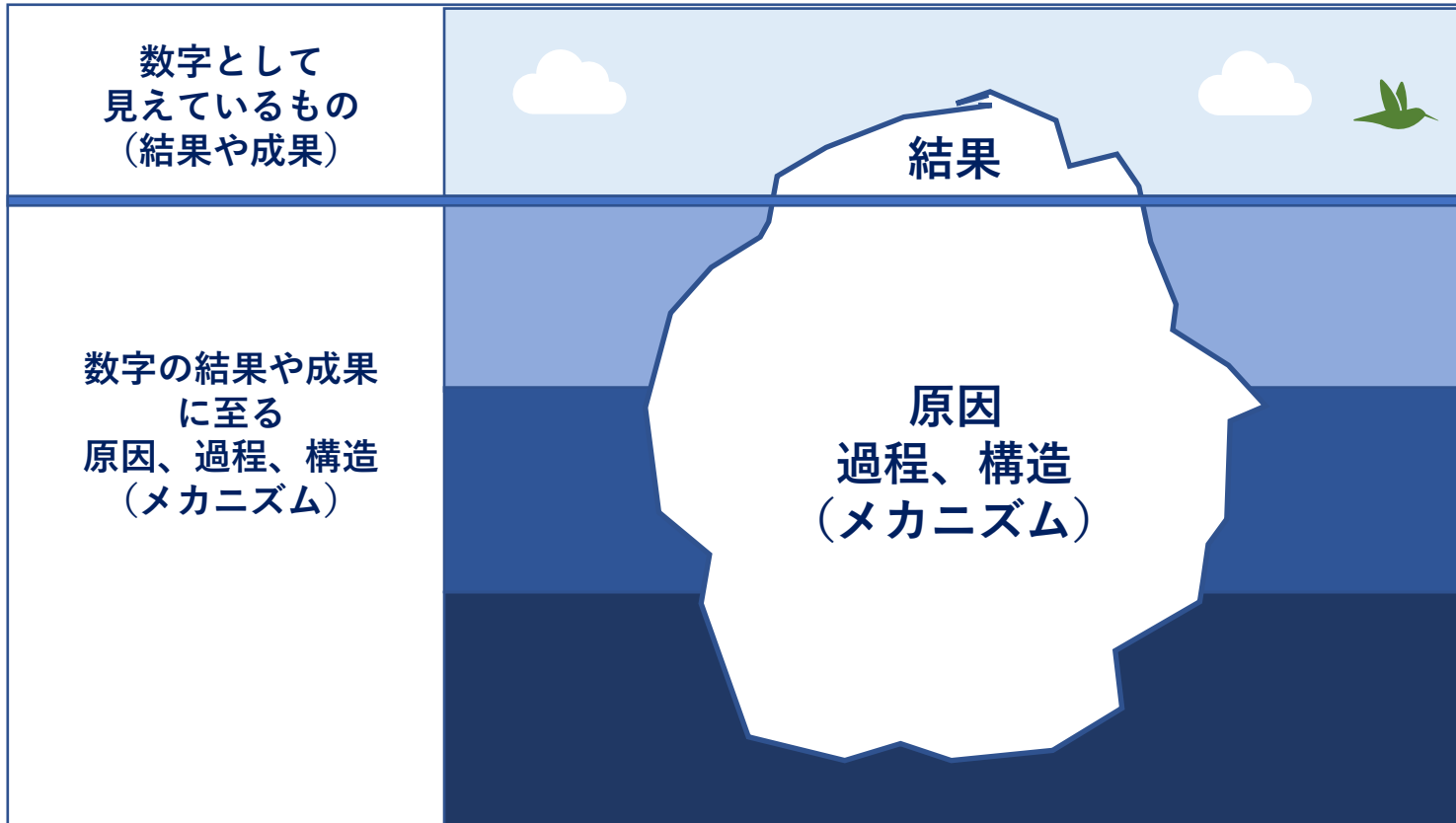
仮説検証

原因把握

仮説構築

仮説の設定と検証の基本

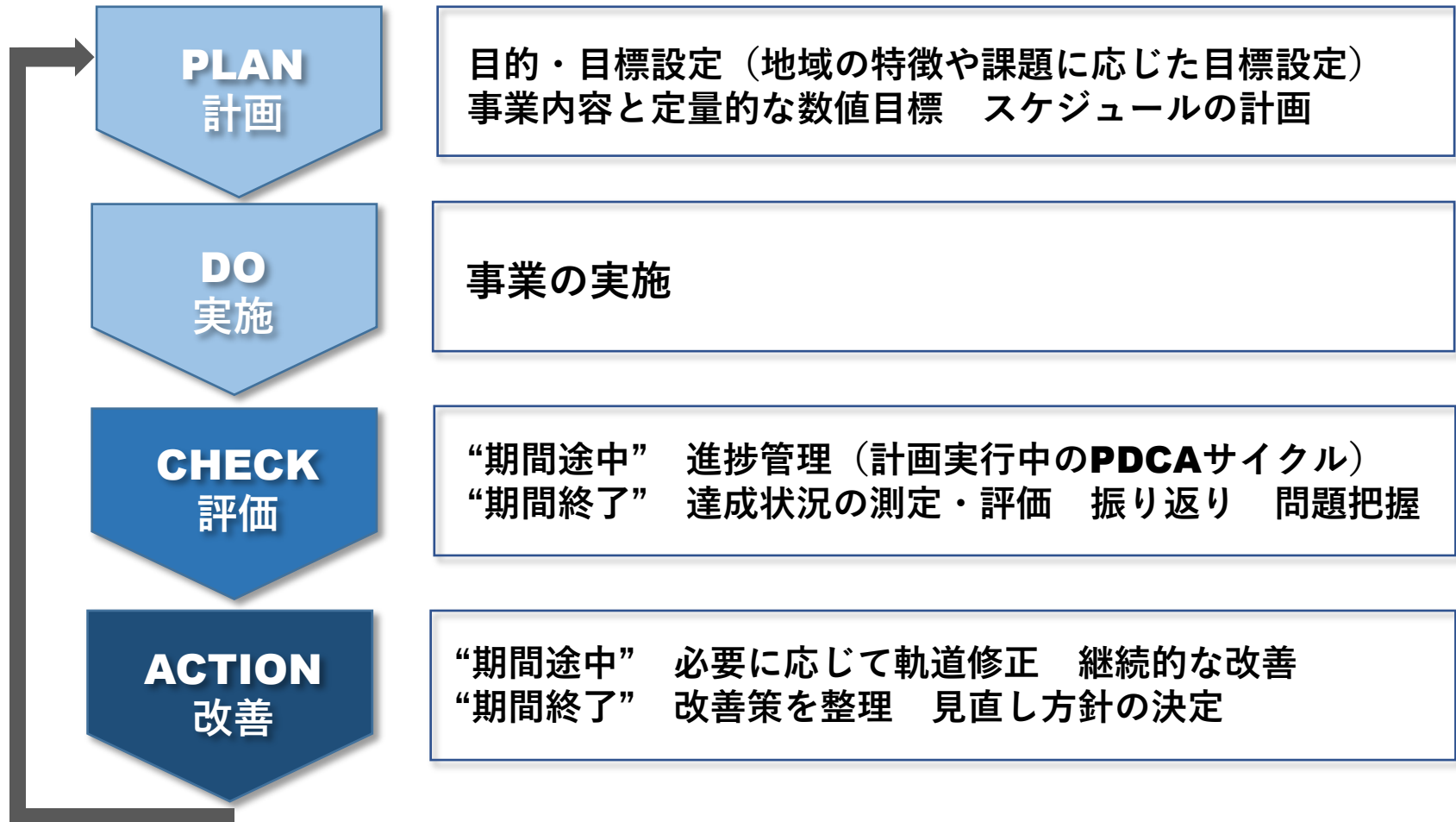
海面から見える部分



海面から見えない海の下の部分

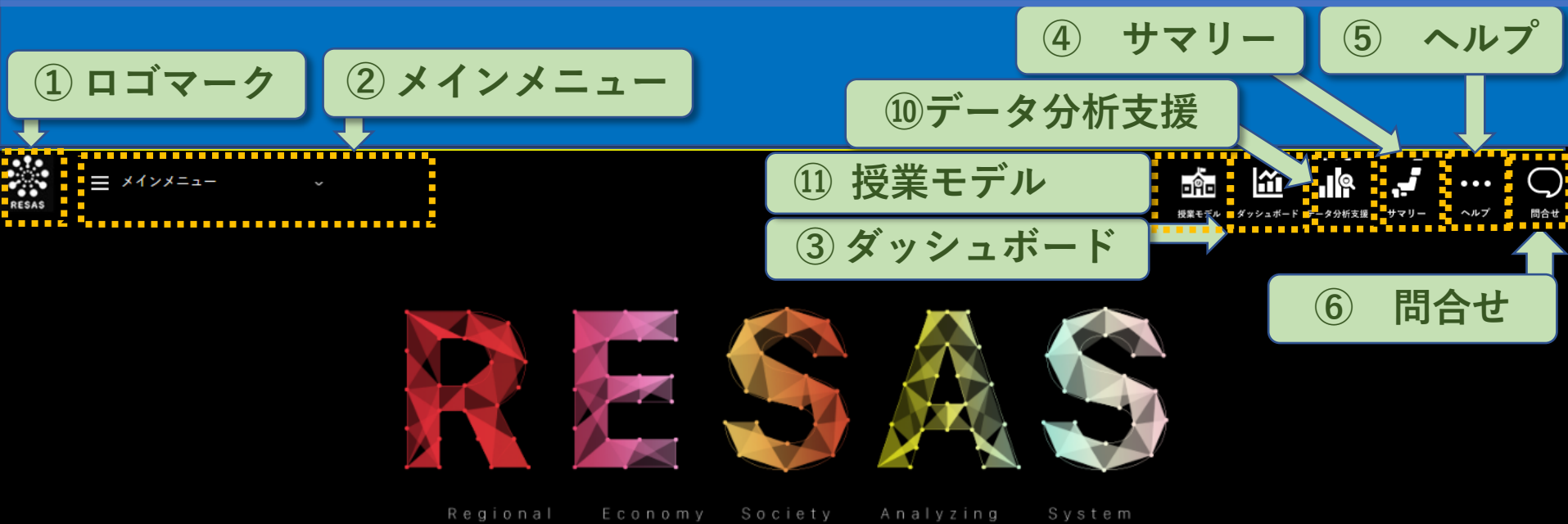
⇒地域の現状把握や将来の計画ためにデータを活用する際には、結果や成果の数字だけではなく、数字の背後にある原因やプロセスに対しても分析の範囲を広げる必要がある

PDCAのサイクル



RESAS の操作方法

RESASトップ画面 アイコンの説明（1）



地域経済分析システム



※画面は2021年
時点のものです。

RESASトップ画面 アイコンの説明（1）

クリックすると、トップ画面に移動します。

マップやグラフを表示するためのメニュー。項目をクリックし、目的のマップまたはグラフを選択します。

クリックするとヘルプ画面に移動

① ロゴマーク

② メインメニュー

④ サマリー
※アイコンの説明

便利な追加機能

⑤ ヘルプ



クリックすると、画面下部の「NEWS&EVENT」に移動。RESASに関連するニュースやイベントのリンクが表示されます。

クリックすると、画面下部の「SERVICE」に移動。RESASの関連サービスのリンクが表示されます。

クリックすると、画面下部の「ABOUT&RELATED INFORMATION」に移動。RESASの関連情報へのリンクが表示されます。

※画面は2021年時点のものです。

各マップ・グラフの共通機能

マップ検索機能

メインメニュー

サマリー

ヘルプ

問合せ

ダッシュボード

データ分析支援



地図の
拡大・縮小

指定地域
(都道府県/市区町村)

右メニュー
マップやグラフで表示する地域の単位や年度を指定します。
右メニューに表示される項目は、
マップによって表示される項目が異なります。

追加する
(ダッシュボード)

Facebook

Twitter

マップの説明

アイコンの説明 ③ダッシュボード

マップやグラフの画面で地域や項目を設定した状態を登録しておくもの。30件まで登録可能。

自治体の登録画面へ移動します

- 各画面で使用できる合算・比較地域を最大5件まで登録可能
- 1つの合算・比較地域には最大30地域まで追加可能

初期画面には、最近追加した順に6件まで表示されます。(表示例)

ヘルプが別ウィンドウで表示されます

ダッシュボードからデータを削除する場合クリックします



DASHBOARD ダッシュボード

合算・比較地域の登録

ダッシュボードの使い方(PDF_0.3MB)

From-to分析 (潜在人口)

From-to分析 (潜在人口)

From-to分析 (潜在人口)

From-to分析 (潜在人口)

From-to分析 (潜在人口)

From-to分析 (潜在人口)

From-to分析 (潜在人口)

もっと見る >

もっと見る

7件目以降を表示したい場合は、「もっと見る」をクリック

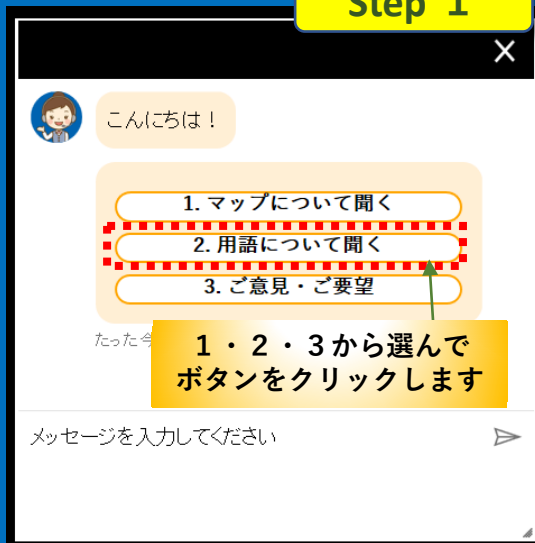
アイコンの説明 ⑥ 問合せ



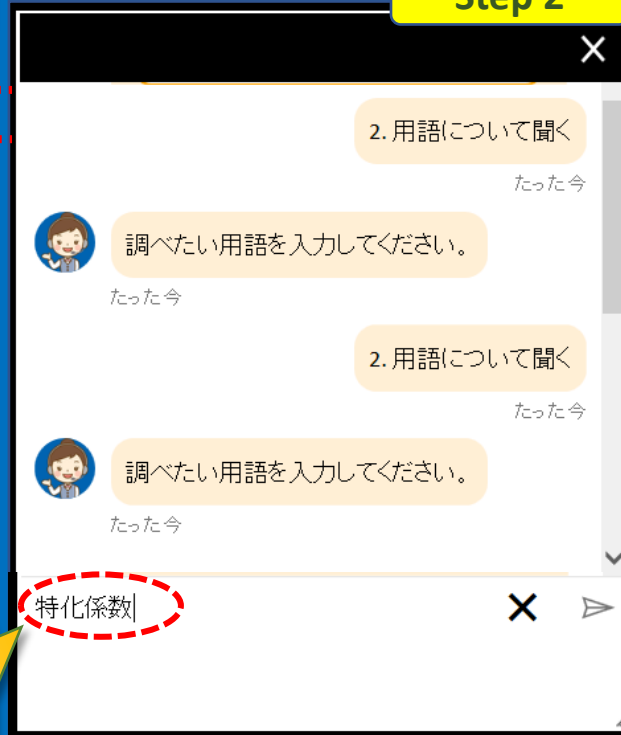
問合せ

問合せ画面へ移動します

Step 1

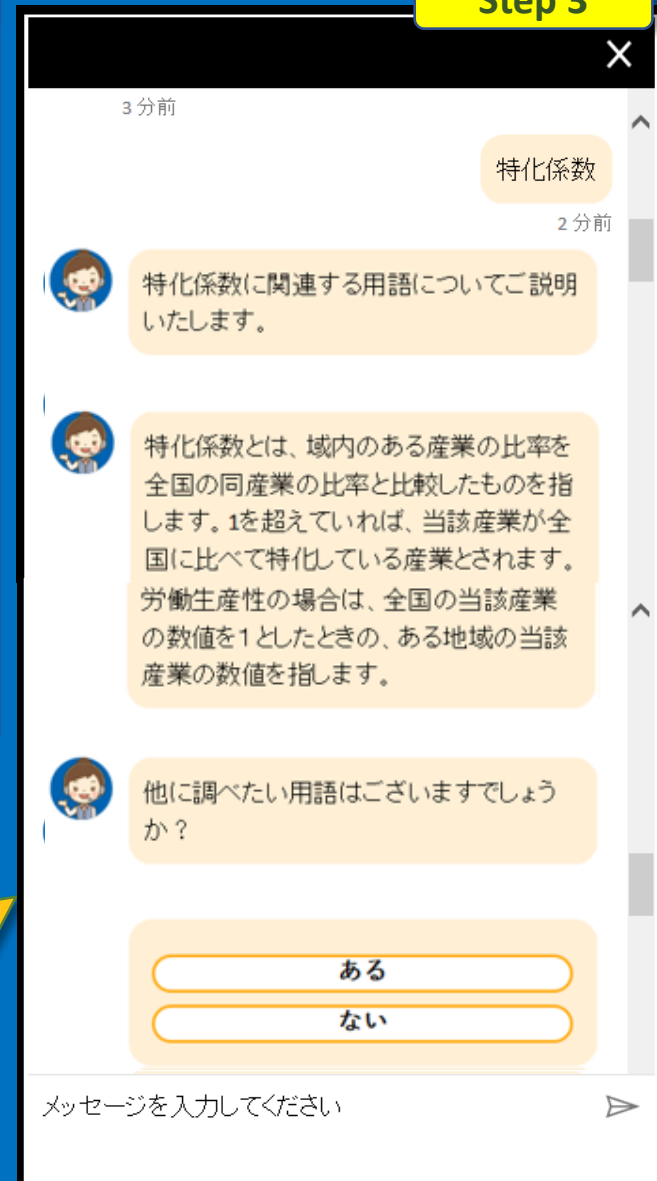


Step 2



マップやグラフの用語の解説が画面に表示されます。

Step 3



アイコンの説明 ④ サマリー



Step 1

トップページの「サマリー」ボタンをクリックします。



地域経済分析システム

Step 2



サマリーサイト

「サマリー」ボタンをクリックします。

一回ですべてのサマリーデータを生成する場合には、このボタンをクリックします。

Step 3

Summary サマリー機能

TOP > サマリー機能

📍 サマリー表示地域を選択

地域を選択する ※必須

合算地域を選択する ※

福島県

いわき市

調べたい地域を選択します。
例) 福島県いわき市

比較地域を選択する

※任意 総論「人口」メニューは最大30件まで、その他メニューは11件まで

静岡県

浜松市

+ 追加

比較して調べたい地域があれば選択します。
例) 静岡県浜松市

マニュアル

サマリー版操作マニュアル ▶

📊 一括サマリーデータ生成

個別のテーマでサマリーデータを生成する場合は次のページへ

個別の場合は以下からサマリーデータを選択

総論



Step 1

個別のテーマでサマリーデータを生成する場合は、テーマボタンを選択してクリックします。



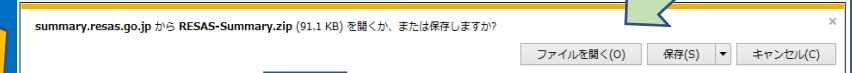
調べたいテーマを選択します。
例) 産業特性 (水産業)

「個別サマリーデータ生成」ボタンをクリックします。

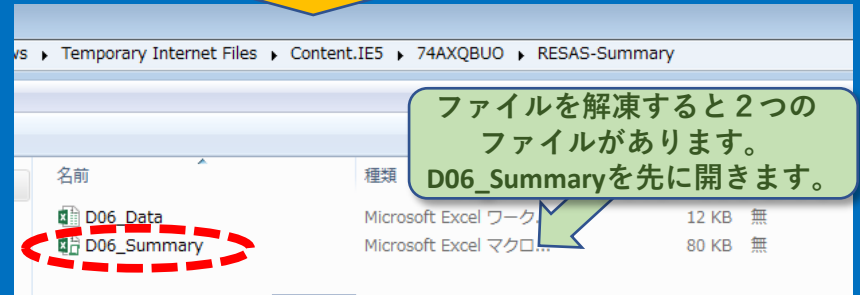
個別サマリーデータ生成

Step 2

ファイルがダウンロードされます。ファイルを解凍します。

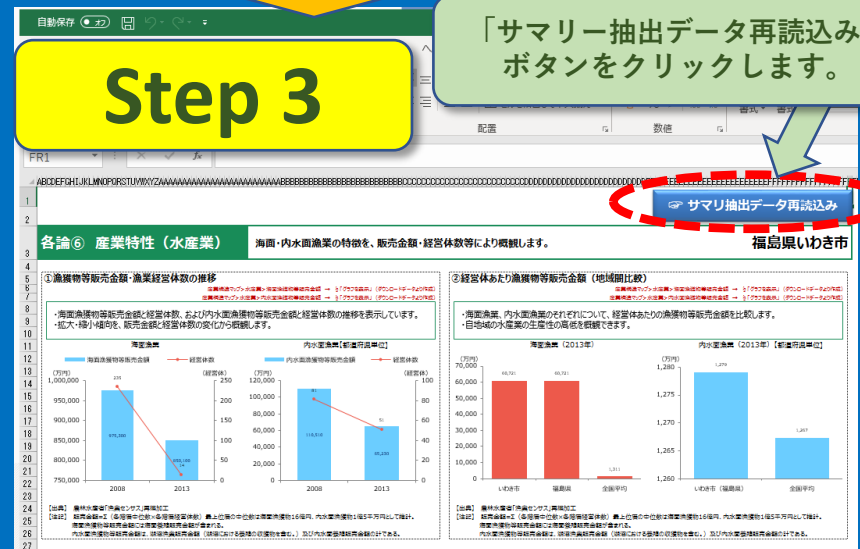


ファイルを解凍すると2つのファイルがあります。D06_Summaryを先に開きます。



Step 3

「サマリー抽出データ再読み込み」ボタンをクリックします。



福島県いわき市の産業特性 (漁業) のサマリーが画面に表示されます。

Analysis Support データ分析支援機能

RESASに搭載されている数多くのデータ・分析グラフの中から、第二次産業・第三次産業等、分析テーマに沿った代表的な分析画面を抽出して順に表示します。

各分析画面には、分析の視点となる「グラフの見方」全国傾向と比較した特徴等を示す「示唆」、分析結果から施策を検討するヒントとしての「施策検討例」等分析を支援するための様々なコメントが表示されます。

また、一部の分析画面では、人口構造・産業構造等の視点から分析対象地域と似通った地域が一覧で表示され分析グラフに自由に追加できる「類似自治体選択機能」があります。（※本機能は試用版です）

ケース・スタディ

大阪府池田市 産業の現状把握と課題発見

課題テーマ：「大阪府池田市の産業構造の現状を把握し課題を発見する」

① 地域の産業の全体像の把握する

- ・「地域の産業の全体像」は？ 企業数・従業者数・売上高・付加価値額を確認する。

② 産業構造を全国平均と比較する

- ・全国平均と地域の産業構造を比較してわかることは？ 際立った特徴を持つ産業は？

③ 稼ぐ力のある産業を特定する

- ・付加価値額、従業者数、労働生産性の特化係数から、稼ぐ力のある産業といえるのは？

④ 類似自治体と比較する

- ・地域のなかで稼ぐ力のある産業の労働生産性を類似自治体と比較する。
- ・類似自治体の中で労働生産性を上昇させている地域を把握し、新たな試みの参考にする。

⑤ 時系列での変化を確認する

- ・地域の製造業を時系列で比較すると、どのような変化がみられるのか？

マップの操作例：人口マップ

The screenshot shows the RESAS website interface. At the top left is the RESAS logo. A navigation menu is open, showing a dropdown for '人口マップ' (Population Map) with options: '人口構成' (Population Composition), '人口増減' (Population Change), '人口の自然増減' (Natural Population Change), '人口の社会増減' (Social Population Change), '新卒者就職・進学' (New Graduate Employment and University Admission), '将来人口推計' (Future Population Projection), '人口メッシュ' (Population Mesh), and '将来人口メッシュ' (Future Population Mesh). To the right are icons for '授業モデル' (Lesson Model), 'ダッシュボード' (Dashboard), 'データ分析支援' (Data Analysis Support), 'サマリー' (Summary), 'ヘルプ' (Help), and '問合せ' (Contact Us). Below the menu is the RESAS logo, which consists of the letters 'RESAS' in a stylized, colorful, geometric font. Underneath the letters are the words 'Regional', 'Economy', 'Society', 'Analyzing', and 'System'.

地域経済分析システム

人口マップ

人口構成

新卒者就職・進学

人口増減

将来人口推計

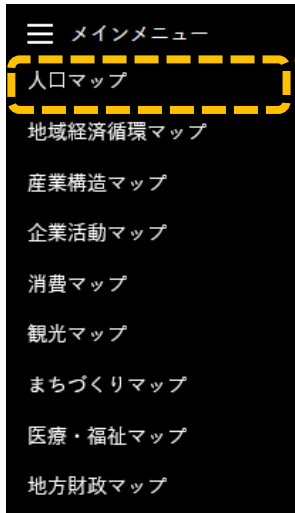
人口の自然増減

人口メッシュ

人口の社会増減

将来人口メッシュ

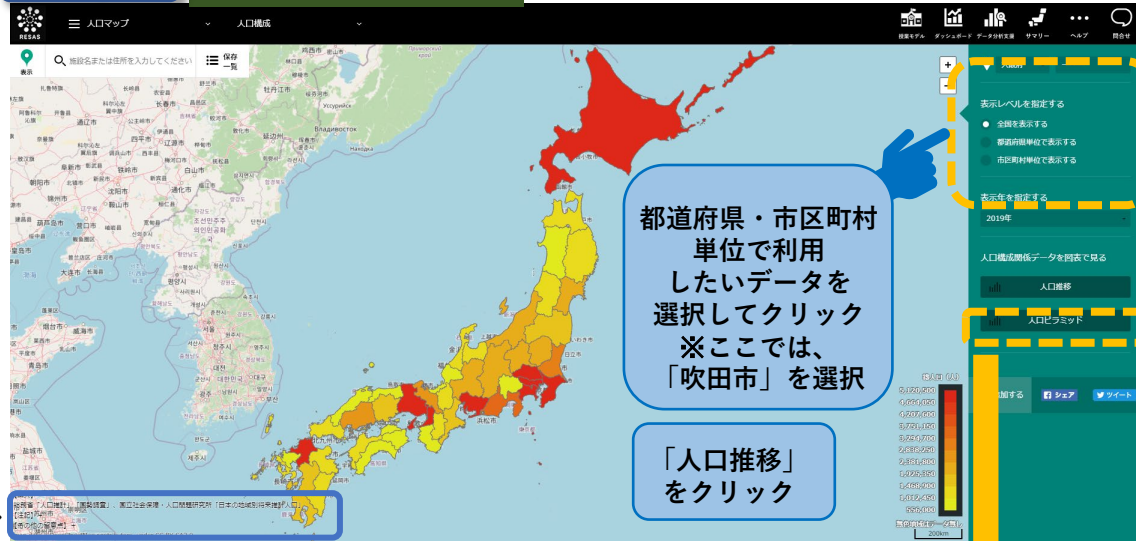
Step 1



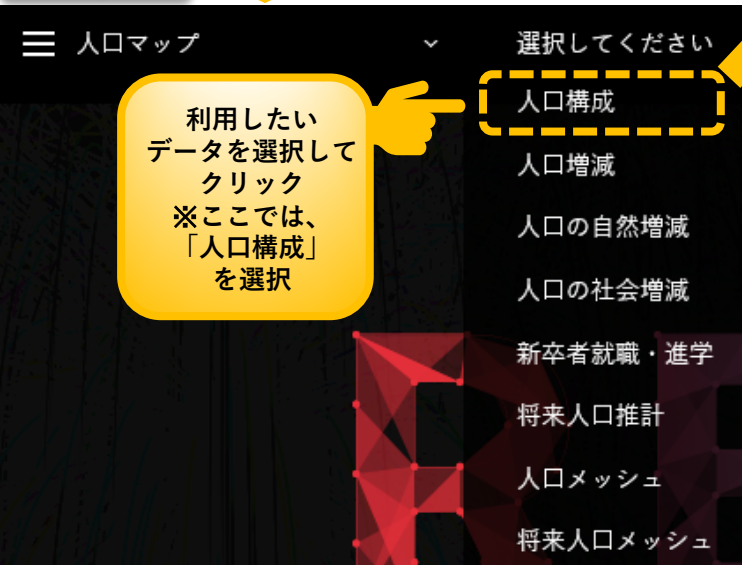
トップ画面の
 メインメニュー
 の中から利用
 したいマップを
 選択してクリック
 ※ここでは、
 「人口マップ」
 を選択

Step 3

人口構成のトップ画面

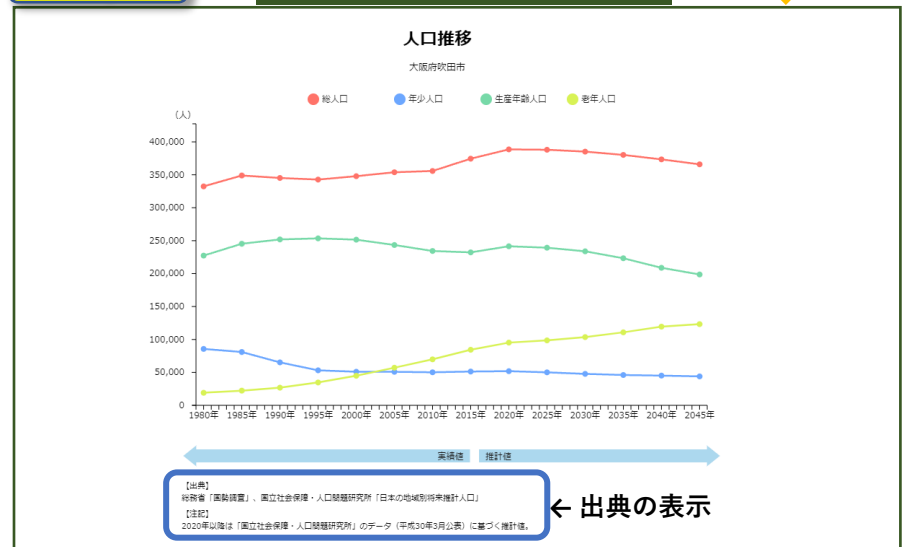


Step 2



Step 4

人口推移のグラフ



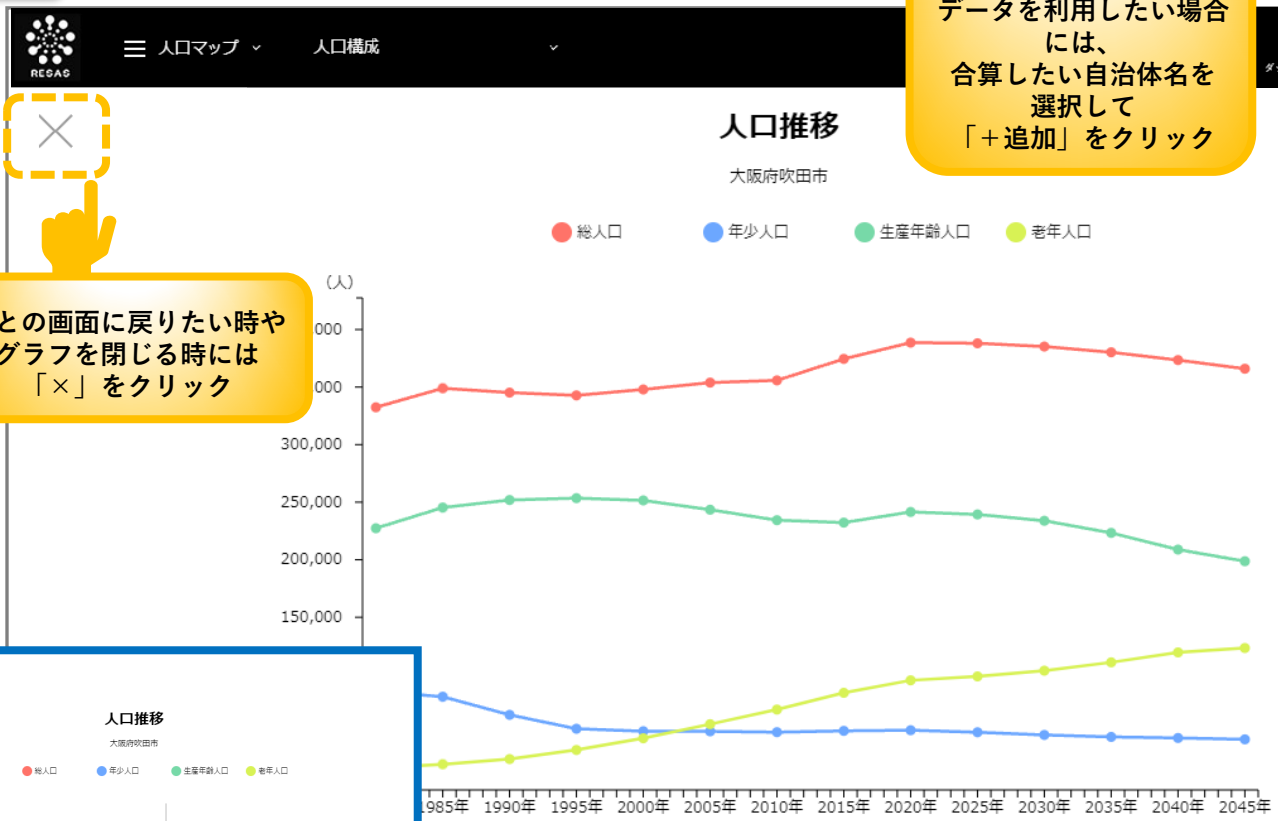
Step 5

その他

人口推移のグラフ（吹田市）

他の自治体と合算したデータを利用したい場合には、
合算したい自治体名を選択して
「+追加」をクリック

もとの画面に戻りたい時や
グラフを閉じる時には
「×」をクリック



ダッシュボード データ分析支援 サマリー ヘルプ 問合せ

大阪府 吹田市

他の自治体と一体的に見る

合算地域を追加する

大阪府

大阪市

+ 追加

データをダウンロード

追加する シェア ツイート

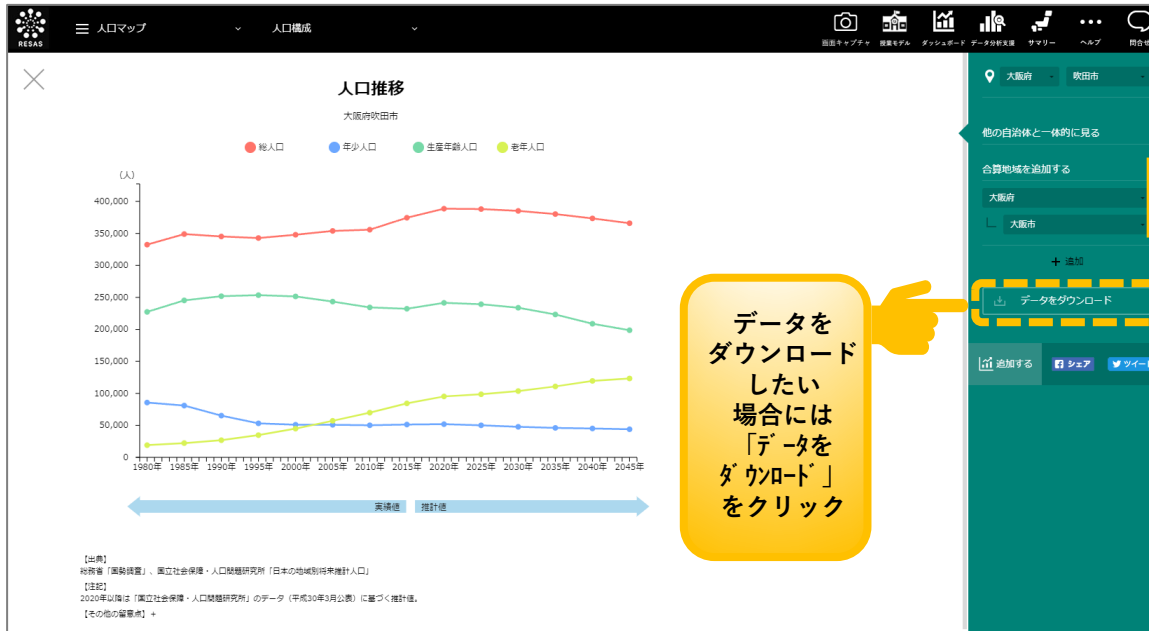
数値の表示

- 2015年
- 総人口: 374,468人
 - 年少人口: 51,299人(13.70%)
 - 生産年齢人口: 232,245人(62.02%)
 - 老年人口: 84,369人(22.53%)

マップの操作例（人口マップ）②データのダウンロード

Step 1

データのダウンロード



Step 2

全国の市区町村のデータをダウンロード

県計年	都道府県コード	都道府県名	市区町村コード	市区町村名	総人口 (人)	年少人口 (人)	生産年齢人口 (人)	老年人口 (人)
1980	1	北海道	1100	札幌市	1401757	323473	989040	87440
1980	1	北海道	1101	札幌市中央区	181806	32415	133254	15685
1980	1	北海道	1102	札幌市北区	195370	43907	139427	11736
1980	1	北海道	1103	札幌市東区	213310	49692	151074	12432
1980	1	北海道	1104	札幌市白石区	228061	57515	157099	13311
1980	1	北海道	218330	旭川市	218330	49545	156081	12204
1980	1	北海道	1106	札幌市南区	128845	31435	89815	7515
1980	1	北海道	1107	札幌市西区	236035	58964	162299	14557
1980	1	北海道	1202	函館市	345165	80038	233334	31712
1980	1	北海道	1203	小樽市	180728	37726	123488	19514
1980	1	北海道	1204	旭川市	352619	82610	243971	26003
1980	1	北海道	1205	室蘭市	150199	36927	102086	11182
1980	1	北海道	1206	釧路市	227234	56648	156521	14065
1980	1	北海道	1207	帯広市	153861	37274	106374	10213
1980	1	北海道	1208	北見市	128229	30456	88104	9667
1980	1	北海道	1209	苫小牧市	41715	8358	29571	3786
1980	1	北海道	1210	釧路市	93340	19983	64653	8704
1980	1	北海道	1211	網走市	44777	10673	30913	3191
1980	1	北海道	1212	留萌市	36626	9004	24675	2947

Step 3

データを抽出

県計年	都道府県コード	都道府県名	市区町村コード	市区町村名	総人口 (人)	年少人口 (人)	生産年齢人口 (人)	老年人口 (人)
1980	7	福島県	7201	福島市	270487	63789	182464	24209
1985	7	福島県	7201	福島市	278229	61616	187948	28662
1990	7	福島県	7201	福島市	284758	55001	193498	35356
1995	7	福島県	7201	福島市	292696	50020	197541	44988
2000	7	福島県	7201	福島市	297894	46612	196961	54314
2005	7	福島県	7201	福島市	297367	43561	192055	61712
2010	7	福島県	7201	福島市	292590	39736	180618	68621
2015	7	福島県	7201	福島市	294247	34412	175079	80252